

愛媛新聞

Monthly

1996

5.10

唯木誌

ひめえ

唯木

「職場復帰までJRと闘う」 国鉄の分割民営化10年目

伊方原発沖にも活断層

赤黄男が見抜いた錯の時代

平成8年5月10日発行(毎月1回発行) 第9巻第5号(通巻90)
昭和63年10月24日第3種郵便物認可 ISSN0915-0942

藏文：**西藏人民出版社**

規模はM_{6.8}～_{7.2}か

最も危険度が高い A 級の活断層が伊方原発の伊予灘に走っていることが、岡村慎・高知大学理学部教員（地盤地質学）の研究で明らかとなつた。押来起きてうる地震の規模はマグニチュード 6.8 ～ 7.2（最高では 7.6）で、津波発生の危険性やあらうじふ。これまで同沖の活断層については、さもさもな争議があつたが、存在が明確にはつたとして、四国電力や行政は新たに対応を迫られるに至らう。従て最新の研究成果をもとに県内の活断層の状況を報告し、県行政の取り組みの甘さを指摘する。

●高知大学理学部教授 岩村宣

地震の予測には「いつ、どこで、どのくらいの（規模）地震が起きるか」を過去の事例から読み取るのが最も正攻法の考え方である。言い換えれば、将来的の地震危険度予測には医学的視

点が不可欠となる。

の大きさと断面の形状の関

私も当時の音波探査の原記録を見たが、当時の技術では最近一万余間の活動を認定するには無理があつたことは理解できる。

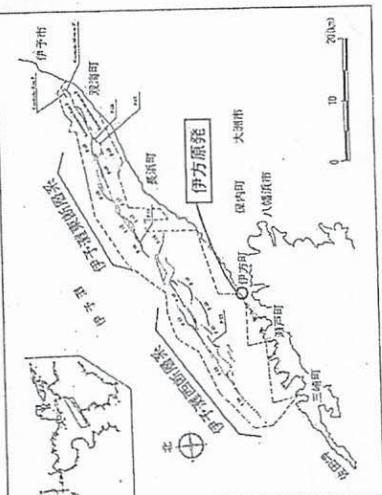
島大寧共の海底活断層調査の結果、伊予灘の海底活断層は今から六千二百年前、四千年前、一千年前にそれぞれニメートルから三・五メートルの様なれ成分を

の大きさと断層の長さの間
係がよく知られており、こ
の経験式を使えばある程度
まで将来起り得る地震の
規模（マグニチュード）を
知ることができる（畠田時
彦・熊本大教授一九七五）。

このことは最近千五百年間、ある。
古文書に地震被害記録が見
あたらぬことと謂和する。もともと中古傳説は甚
地震の周期は二千年間隔と
考えられ、前回の地震から
すでに二千年たつたことか
ら、伊予震度の活断層によ
る地震の危険度はより大き
く現象的なものとなりつつ
され成分の大きな断層とし
て知られ、地震の際の揺
れ量は四一六メートル程度
と見積もられる。また断層
系の長さは伊予灘断層で
一一千八キロメートル、伊予
灘西断層で二十七キロメー



ヨーロッパの民族主義



四一 伊予灘における渦底活躍の分布

トルであることがわかった。伊予灘で起きる地盤の規模は、これらの震度量の見積もりと断層の長さから試算すると、小さく見積もつてマグニチュード(M)6.8。大きな見積もりではM7.2程度を想定する必要がある(図口ら、一九六六年三月の地震学会で、岡田表)。

危険度はより現実的に

断層が直線に動いた場合でも、隣り合う二本あるいは三本の断層が同時に動くことは不可能性も否認できない。実際、松田熊本大学教授は今度千年前当たり八メートルを重視した地震規模を想定すべきであるとした。伊予灘断層系と伊予灘断層が同時に動く(約七十キロメートル)と仮定すれば、その地震規模はM7.7となる。M7.7で震源地底を震源地底では津波が発生する。伊予灘を発生させる想定できることとは指摘できる。

一方原発3号機地盤計画時の「中央構造線の平均震度選定」によると、中央構造線の平均震度選定度は五メートル程度の津波を想定している。また、五メートル程度の津波を想定するには相当する。さらに、津波は海岸から二十七キロメートルの範囲に分布しており、平均二十五メートル程度の津波を想定するには必要である。

これらは津波など地盤的特異点ではこの数倍の高さの波が沿岸を襲うことになる。いわゆる必要がある。また、伊予灘と伊予灘断層が同時に動いたことがあるかわからないが、少なくとも伊予灘は、日本の大震や米国カリフォルニア、米国内陸沿岸でも研究が進行中である。また、伊予灘と伊予灘断層が同時に動いたことがあるかわからない。

愛媛県内の 陸上活断層

愛媛県内にある危険な活断層は、伊予灘だけではない。伊予灘は西方に位置する。また、伊予灘と伊予灘断層が同時に動いたことがあるかわからない。

	伊予灘断層系	伊予灘断層系
断層の走向	N60°E	N60°E
断層系の長さ	28km	27km以上
断層の平均の長さ	3.2km以上	4.9km
断層の最大距離	約4km	約4km
構成断層	小鍋浦南・北断層 F5-F6断層	F17-24断層
上下動の主なセンス	南おち	北おち
平均変位スピード(活動度)	0.4~3.1cm/年 (A級)	0.2~3.6cm/年 (A級)
推定マグニチュード	M6.8	M7.2

表1 伊予灘の2つの断層系と、予想されるマグニチュード

り、伊予断層(又は海町高野川・砥部町高尾田、北の方断層(又は内町北方)鳥の子、川上断層(又は内町北方)の地盤を起きていたものの、同方断層(又は内町北方)の記録は得られていない。古文書等の中華・石屋断層(又は北条)の記載では愛媛大浜・豊岡町五良野)、細君の内での活断層には知ら

り、まだ中央構造線と呼ばれている。詳細な位置については工業技術院地質調査所から二万五千分の一地形図上に記載・公表されており(中央構造線系活断層マップ、1993年版)。

アマツアはび認明書、水野・岡田ほか(一九九四)、だれでも購入することができます。

これまでに行われた数本

の断層のトレンチ調査では、マグニチュード(M)7.2。

図2 愛媛県内の中央構造線活断層
(地質調査所発行、25万分の1中央構造線
(地質調査所マップ、1993年版))



危険性と愛媛

明治初期に山間部を走った櫛橋構造線と異なり、中央構造線の活断層は陸上に位置する。この方面でも注意が必要である。また、伊予灘は海岸から二十七キロメートルの範囲に分布しており、平均二十五メートル程度の津波は必要である。

海底の活断層研究は陸上

に耐えられるか私にはわ

からないが、少なくとも伊

様的に堆積物が堆積してお

る。これは地盤後きわめて短時間で

する。この方面でも注意が必

要である。

海底の活断層研究は陸上

に耐えられるか私にはわ

からないが、少なくとも伊

様的に堆積物が堆積してお

る。これは地盤後きわめて短

時間で

する。この方面でも注意が必

要である。

海底の活断層研究は陸上

に耐えられるか私にはわ

からないが、少なくとも伊

様的に堆積物が堆積してお

る。これは地盤後きわめて短

時間で

する。この方面でも注意が必

要である。

海底の活断層研究は陸上

に耐えられるか私にはわ

からないが、少なくとも伊

様的に堆積物が堆積してお

る。これは地盤後きわめて短

時間で

する。この方面でも注意が必

要である。

神戸超える災害の恐れも

笑点 月原保

表紙のことば
小清水 漸

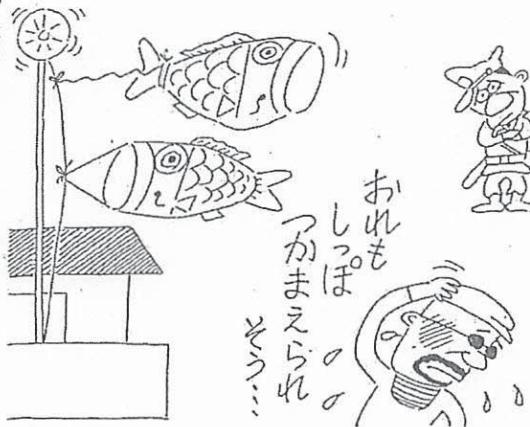
足踏みの長い春だなと思って居たら、いきなり初夏が来てしまったようだ。

桜の花の三分咲きの頃、仕事で渡欧した。今年もまた、満開の桜を見ずに春が終わるのかと、少々心を残しながら旅立った。

ロンドンは、まだ肌寒く、それでも春の到来を一刻も早く告げるかのように、黄色いラッパ水仙が咲き競っていた。この街での目的は、セザンヌの大展覧会を見る事にあつたが、チケットはすでに完売、その情報を得て居たので、僅かな当日売りに期待して、小雨の降る朝、長い列の後ろに並んだ。

デン・ハーグでは、フェルメールの展覧会が、やはり去年のうちに完売。無理だからあきらめろ、と全ての美術関係者の忠告を受けたが、ロンドンでの僕倆の再現を願って、北海からの冷たい風の中を並んだ

良い作品を見た満足感と共に帰国したが、二週間を過ぎてまだ、桜は満開であった。七分咲きの桜に積もる雪を見逃したのは、残念だが。



編集後記

〔口〕県政記者クラブ（番町クラブ）の事務を三十五年担当した女性が春に退職しました。彼女は記者クラブの仕事を通じて、記者、そして県政を見つめてきました。隠れたエビソードも多々あることでしょう。内輪の送別会の席上、手記執筆のエールがあつたのもうなしきます。当編集部の歴代スタッフもお世話になりました、感謝、感謝です。春は人事異動の季節。当編集部にも一部、交代がありました。新メンバーを加えたスタッフ一同、日々誌面刷新の気構えでいます。（増原）

□：九年間、席を温めた編集部から今春、えひめ雑誌編集部に移ってきました。新聞と雑誌、この似て非なるもの。新しい職場で、二十九年ぶりに新入社員に戻ったような心境です。初仕事は、E. hime人物図鑑の取材。埼玉県所沢市へ松山出身のミステリー作家、天荒恵太さんを訪ねました。心理サスペンスが得意で、今最も期待される若手作家の一人。現代の家族と社会を見据えた作品を次々と書いています。インタビューをして、社会現象について感じをますます強くしました。話題作の「家族狩り」に統いて、次作は石鶴山が舞台の長編小説。今から楽しみです。

□：九年間、席を温めた編集部に移ってきました。新聞と雑誌、この似て非なるもので、新入社員に戻つたような心境です。初仕事は『Dime人物図鑑』の取材。埼玉県所沢市へ松山出身のミステリー作家、天童荒太さんをお訪ねました。心理サスペンスが得意で、今最も期待される若手作家の一人。現代の家族と社会を見据えた作品を次々と書いています。インターネットで、社会派の作家として、『家族狩り』に統いて、次作は石鶴山が舞台の長編小説。今から楽しみです。（野村）

<p>えひめ雑誌 平成八年五月十日号 (第九巻第五号)</p> <p>愛媛新聞社情報出版局 えひめ雑誌編集部</p> <p>愛媛新聞社発行所 印刷所</p> <p>丸尾修 増原誠二 アマノ印刷</p>
<p>〒790-172 松山市大手町一丁目十二二 電話 089-1935-12020 FAX 089-1947-17656 郵便振替口座番号 01600014115421</p>
<p>毎月一回十日発行 定期 価格 六百円 (本体五百八十三円)</p>
<p>ご購読の申し込みは愛媛新聞アリーサービス(販売店)、支社・本社情報出版局普及促進部、有名書店へ。問い合わせは、</p>
<p>フリーダイヤル 0120-184341 FAX 089-1947-17656 (送料無料)、六ヵ月分前納 三、三〇〇円(郵送時実費)。</p>